

保育者養成校における対話に基づく授業実践

—ワールドカフェ方式を用いて—

Lesson practice based on dialogue at a nursery teacher training school

—Using the world café method —

安藤 香 (ANDO Kaori)

(名古屋芸術大学 教育学部 子ども学科)

1. 問題と目的

1-1. 問題の背景

学生にこちらの意図することを伝える時に、ただ聞くだけではなく、考える時間を取り入れ、学びを定着していきたいと願っていた。しかし、話し合う場面を設定しても、なかなか話が続かないことが多く、どのようなアプローチが有効かを探っていた。

その真意として対話になることが望まれる。音山(2012)や利根川(2017)等が対話的アプローチについて研究している。その中でワールドカフェ方式での話し合いに言及していた。音山は、ワールドカフェ方式の話し合いは、実習指導の取り組みにおいて有用であるが、尺度の設定がなくカフェ課題を明確にすることが必要であると述べている¹⁾。利根川は、それを受けてAIミニインタビュー行っている²⁾。

筆者が最初にワールドカフェ方式の話し合いを見たのは、保育園のクラス懇談会の場であった。それまで、懇談会の話し合いについては、小さなグループにする等、なるべくいろいろな方の意見が反映されるように心がけていた。しかし、グループにすると人が固定されてしまい、全体での繋がりは弱くなっていった。反対に、人数が多いと全体は繋がるように見えるが、話す機会は少なく、聞くだけになってしまい応答関係が薄くなる傾向があった。

ワールドカフェ方式の話し合いは、少人数での話し合いである。保護者も井戸端会議のように気楽に日頃の悩みも話しやすい様子が見られた。グループ

をシャッフルすることにより、いろいろな人と話す機会に繋がり、相互理解に繋がっていったと感じた。少人数でありながらもシャッフルすることで、普段話すことのない保護者を繋げ、コミュニケーション力が高まっていくことを実感した。グループに一人が残り、前のグループでの話し合いの内容を伝えることにより、更に話の内容が広がっていったように感じた。保護者を見ても、「〇〇ちゃんのパパ・ママ」ではなく、個人として他者と繋がりが出来ていたようにも感じる事が出来、少人数での対話を全体の対話にしていく効力があることを実感した。

このワールドカフェの話し合いの利点が、学生の学びの利点にも繋がるのではないかと考え、学生同士の話し合いにおいてワールドカフェ方式を取り入れるようになった。今回、1年生の前期の「保育原理」の授業において、少しでも保育について多くを学生に知ってもらいたいと思い、保育の事柄についての定着を行うため、また、学生同士を繋ぐために、ワールドカフェ方式の話し合いを取り入れた。

1-2. ワールドカフェの定義

ワールドカフェは、「カフェにいるようなリラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に別れたテーブルで自主的に対話を行い、時々他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させていくこと。相互理解を深め、集合知を創出させていく組織開発の手法」と記載されている。現在ビジ

ネスや市民活動、街づくり、教育など様々な分野で活用が進められている話し合いである³⁾。

ワールドカフェとは、アメリカのアニータ・ブラウン氏とデイビット・アイザック氏によって1995年に提唱された対話コミュニケーションの手法である。堅苦しい会議室でなく、カフェのようにオープンでリラックスした空間でこそ知識や知恵が生まれるとして、参加者の主体性と創造性を高めるためのポイントがまとめられている。地位や年齢に関係なく誰もがフラットな立ち位置で、全員が自分の意見を言い、相手の意見を聞くことがメインの活動となる。

1-3. 研究目的

授業は14回まで、どちらかという一方向の教授型になっていた。そこから学生の理解に繋げるのは、学生が主体的に関わる必要がある。パウロ・フレイエは「非抑圧者の教育学」の中で対話の必要性を述べている。対話を大切にし、問題志向型の教育をする者にとって、プログラムされた教育内容は、組織的に、体系的に、より発展した形でフィードバックしていく、と述べられている⁴⁾。

学生には、自ら問題意識を持ち、自分で考え、自分で行動できるようになって欲しいと願っている。筆者は、内容を伝えたいと思う事で14回までは教授型の授業になっていた。15回目は、学生が主体的に考えられるようにしたいと考え、ワールドカフェ方式を取り入れての話し合いを行った。対話をすることで、学生が得られるものは何かを探っていくことを本研究の目的とする。

2. 方法

2-1. 対象の科目

ワールドカフェ方式の話し合いは今まで多様な授業の中に取り入れてきたが、今回1年生開講科目「保育原理」(2022:前期)を対象にして行うことにした。対象人数は34名である。保育について初期の段階において、話し合いによる学びがどのよ

うに培われていくのかを探っていきたいと考えた。話し合いの内容は、授業の中で自分が大切だと思ったことに焦点を当てて書いたレポートを基に行った。

昨年度はテーマを決めて行った話し合いとテーマを自由に選ぶ話し合いを行った。テーマを決めた話し合いは、学生にとっての話し合いの窓口の広がりだけでなく、内容の省察が少ないように感じていたので、今回は自由課題とし、そこでの話し合いの成果を検証するため「保育原理」の授業を対象にした。

2-2. 今回行ったワールドカフェの方法

1グループあたりの人数を4人(最大5人まで)とし、話し合いを行った。各グループ、固定の1人「親」を決め、残りの人はバラバラにシャッフルして違うグループに行くように伝えた。学生の様子を見て、15分ほど話したのち、シャッフルしていく。シャッフルは時間が許す限り行った。グループで出た意見を親が新たなメンバーに話し、新たなメンバーも自分の発表を含め各グループで出た内容を話し合っていく。シャッフルを繰り返しことで、自分が存在していない話の内容を聞くことが出来、グループでの話し合いも各人が主体となって話し合っていくことが出来るようにした。最後にグループ発表を行い、話し合いの内容を皆で確認した。

2-3. 研究方法

毎回授業の後、課題としてキーワードを記して記入してもらっている。今回も課題として、(1)ワールドカフェ方式での話し合いについて感じたこと、(2)話し合いの中で学んだこと、の2点について自由記述を行い、学生が自身で振り返りが出来るようにした。今回は自由に記入してもらった感想からキーワードを抜き出し、それを分類してカテゴリーに分類して、ワールドカフェ方式の話し合いにおける視点を構成した。

2-4. 倫理的配慮

個人が特定されないよう倫理的配慮を行って視点抽出を行うようにした。今回、学生の学びについて検証していく目的のため、学生からの文言は、出来るだけそのままの形で抜き出すようにした。

3. 結果

3-1. レポートの内容

学生の視点は多岐に渡っていた。レポートの題名は、「幼稚園・保育園に行きたくない子どもの気持ちと保護者の援助」「保育士の人材不足、保育士就職相談」「マリア・モンテッソーリについて」「少子高齢化と待機児童問題」「保育士はなぜやめてしまう人が多いのか」「子どもの貧困について」「モンスターペアレンツ」「子どもと一緒に観たい・観せたい映画」「子育て支援」「子どもの習い事ランキング」「幼稚園の歴史」「乳児保育について」「ヤングケアラーについて」「魅力ある保育者たちを読んで」「子どものごっこ遊びがもたらす効果」「絵本」「子どもと歌について」「男性保育士になるために知っておくべきこと」「協調性」「保育と絵本」「絵本について」「中日幼稚園教育の区別」「『虐待から子どもを守る』を読んで」「保育において大切だと思うこと」「保育士に必要なこと」「保護者の立場から保育士に求められること」「マスクが与える保育への影響」「子どもの外遊びがもたらす効果について」「子

どもたちの適切な叱り方とは」「保育の歴史」「子どもの遊び」「保育士に必要なこと」「保育についての問題」「今の保育に欠けていること」「発達段階に合わせた遊びについて」「虐待について」「保育と芸術」「スマホ保育による子どもへの影響」「子どもの安全保育は何か」についてであり、学生の関心が幅広く存在していることが伺える。

この内容を印刷して事前に学生に配布し、他者のレポートを読んでからワールドカフェ方式の話し合いに参加できるようにした。

3-2. 話し合いの感想からの分析

今回、学生から出た感想文は 33 枚回収した。感想文は、A4 用紙 1 枚に(1)ワールドカフェ方式での話試合について感じたこと、(2)話し合いの中で学んだことについて、(3)15 回の授業についての感想、(4)授業についての質問、の 4 項目を記入してもらった。項目ごとに分類する予定であったが、感想がかなり混ざっていたので、一つにまとめて分類を行った結果、141 の視点が抽出された。この視点を、(1)対話の重要性、(2)コミュニケーション構築、(3)学びへの気づき、に分類してみた。線引きが難しい視点もあったが、(1)対話の重要性では 62 の視点、(2)コミュニケーション構成については 26 の視点、(3)学びへの気づきは 53 の視点が抽出された。

下記が抽出されて物を記した一覧である。

大枠	小枠	内容
対話の重要性	聞く	「自分と違う意見を聞くことが出来る」「発表の内容がそれぞれ違っていろいろ聞いて良かった」「一人一人個人で考えることが違っていろいろな意見があって面白い」「こういう意見があるのかと思った」「質問がしやすい」「いろいろな事が知れて面白かった」「テーマを選んだ理由やきっかけを知ることが出来た」「みんなの意見を聞く良い機会、それぞれが興味深い問題を取り上げていた」「人の意見で内容にいろいろな視点が増えた」「みんなの異なる意見を聞き自分の考えていない事に気付く」「いろいろな人の意見が聞けた」「色々な意見や感想を聞いて良かった」「様々な話を聞くことが出来て良かった」「他人の意見を聞く機会を得た」「グループの人だけでなくいろいろな人の意見を聞くことが出来る」「レポートの内容に興味を持った人と話せることが出来て良かった」「一人一人まとめる内容が違って」「たくさんの意見があり成長できた」「違う意見や新しい意見が知れて面白い」「考えていることは一人一人違う」「自分では思いつかなかった意見が聞けた」「みんなそれぞれ観点の違うレポート」

	話す	<p>「初めは自分の調べたことを話すことに緊張したが楽しくなってきた」「グループの人数が少ないから深い内容を話せて良かった」「リラックスして話すことが出来気軽に自分の意見を述べる事が出来る」「しっかり目を見て聞いてくれたり上手く言葉にできなかった時に待っていてくれると話しやすかった」「分かりやすく説明する必要」「いろいろな分野の問題を話し合うことが出来た」「積極的に話し合いに参加でき安心した」「意見交換する機会となった」「意見交換と共感」「様々な人と交流・共感できる良い方法」「自分の意見をはっきり伝える練習になった」「話すことでテーマや選んだ理由や思いを知ることが出来た」「繰り返して何回も話す自分も他者も内容に変化がある」「周りの子と意見交換することは大切」</p>
	まとめる	<p>「一人一人全く違う意見をまとめて次のグループに伝えることが大変だった」「まとめた説明が分かりやすいと言われて嬉しかった」「違った意見を簡潔にまとめて説明する能力を身につけたい」「グループを変えた時に前の人たちがどんなことを言っていたかを聞いたことでたくさんの人の考えを聞いた」「人に対しての説明のやり方簡潔にまとめることの重要性を知った」「どのような話し合いをしたのかという理解」「班によって話し合いの仕方が違いいろいろな発表風景を感じることが出来た」「みんなの考えや意見を知ることが出来学びを深めることが出来た」「全員の意見の把握は難しい」「親としてすべての意見をまとめることが大変だった」「話し合っただけの内容を前のグループと比較することが出来た」「それぞれの班で話すことが違ったり意見も違ったりする」</p>
	考える	<p>「自分が思っていない事を考えることが出来る話し合いで良い経験になった」「興味を持っていることが違うのでたくさんお話を聞いていろいろな考えを知った」「保育についてみんな違った視点から考えていた」「話し合いをした中で価値観の違いに気づいた」「一人では考えられないような内容をみんなで協力して案を出し合う」「全体より時間的にも効率的にも良かった」「グループ全員が積極的に話し合いに参加しやすい」「他の人の意見も聞きやすい自分の意見も言いやすい」「違ったテーマについて調べていることでより意見や考えが深まった」「自分一人では気づくことが出来なかった部分もあったので良い経験になった」「同じ発表を聞いてもそれに対する思いや感想は違って新しい発見があった」「話し合いの中で保育に必要な事・大切なことが分かった」「全員の意見が気になった」</p>
コミュニケーションの構築	ランダムな集まり	<p>「普段しゃべったことのない人と保育に関する事を真面目に話している」「コミュニケーションの大切さを知った」「普段全く話さない子とコミュニケーションが取れ楽しく話せた」「距離が近く話したことのない人とも話せて良かった」「話したことのない人たちと沢山話せて楽しかった」「書くのも楽しかった」「最初は戸惑った」「あまり話したことのない人とも交流できたので良かった」「楽しかった」「新しいメンバーでコミュニケーションをとる楽しさ」「話したことのない人とも関わることが出来て楽しかった」「楽しんで学べた」「あまり話したことのない人とも話し合えたのでその人柄も知ることが出来た」「初めて行った、あまり話したことのない相手と話すことが出来た」「人と関わることは何より大切であると考えてる」「楽しかった」「普段話したことのないことも話せた」「話したことがない人と関わることが出来た」「あまりしゃべることの出来なかった子とも少し喋ることが出来たので嬉しかった」</p>

	相手尊重	<p>「みんな自分の意見を持っている」「人は十人十色でそれを踏まえて関わりたい」「レポートを読むだけでは分からない相手の心情表情が知れたので具体的に伝わった」「価値観を知ることが出来た」「相手の興味関心について知ることが出来た」「人によって意見や考えは異なる」</p>
今後の保育に対する姿勢について	今後の保育	<p>「自分の意見を持ち、周り話し合い、問題解決する力は、子ども達だけでなく、保育者にも必要」「社会問題になっていることを深く考えることが出来た」「社会のことをもっと知り、時代に合わせた保育が必要」「保育は型にはめるのではなく、人を育て、未来を創るものだ」「保育には正解がないので、たくさんの人の意見を聞き、自分なりに答えを見つけることが重要」</p> <p>「保育に関するいろいろな種類があって驚いた」「今まで見ていなかった方向から考えることが出来た」「視野を広げることが出来た」「解決策や改善策は自分が考えているよりたくさんあるのではないか」「課題にどう働いていくのが大切」「メリットとデメリットの混在」「学んできたことを振り返るきっかけ」「みんなが子どもの未来について考えていることを知った」「知らなかったのもっと調べたい」「保育は信頼や周りの協力が大切」「未来に不安があったが、色々な人と意見交換が出来。自分の考えも軽くなった」「ワールドカフェ方式の話し合いは今後の保育や教育で活用していくべき」</p> <p>「ワールドカフェ方式は考え方の違いだったり調べている内容などを吸収できる良い場だった」「調べている内容もみんな違っていたため、学びも多かった(2)」「普段の些細な事も注意深く観察して考えることが大切」「幅広くいろいろなテーマに触れることが大切」</p>
	具体的な保育	<p>「国の方針や法の整備をもっとしていかないと少子化や保育士不足は解消されないと実感」「男性保育士の問題も考えていかないといけない(2)」「保育士不足や虐待が気になった(3)」「不足していた情報が多く保育を考える必要を実感」「地域との連携連携を濃密にとる」「保育士の給料、人柄が重要」「過去の保育から学ぶ必要」「保育は周りの助け支援も必要(市や県も)」</p> <p>「子どもとのコミュニケーションのあり方や保育の在り方」「印象に残った男性保育士のメリット・デメリット(4)」「違う内容になって面白い」「違う視点のレポート(2)」「保育のことを深く考えさせられた」「レポートはみんな様々で動機や感想も十人十色」「自分と考えることが違う新たな気づきが出来た」「保育者による保育の呼びかけは大切」「保育士は幅広い分野を学ぶ必要がある」「保育にはいろいろな問題があると思った」「これから調べていき自分の考えを持ちたい」「保育士不足の原因が年収にあると考える人が多かった」「授業の振り返りになった」</p> <p>「現実には起きている悲惨なことについても改めて知ることが出来た」「教育に関する全体的な内容について知ることが出来た(2)」</p>

3-3. 対話の重要性

対話の中で、重複している感想も多かったが、(1)聞く、(2)話す、(3)まとめる、(4)考える、の4点についての感想が多く出ていた。

3-3-1. 聞く

聞くに分けた視点として、「一人一人考えることが違っていろいろな意見が面白」「こうい

う意見があるのか」「自分と違う意見を聞くことが出来る」「いろんな意見や感想を聞けて良かった」「他人の意見を聞く機会を得た」「グループの人だけでなくいろいろな人の意見を聞くことが出来る」「テーマを選んだ理由やきっかけを知ることになった」「それぞれが興味深い問題を取り上げていた」「考えていることは一人一人違う」「自分では思いつかない意見が聞けた」「発表の内容がそれぞれ違

っているいろいろ聞いて良かった」「質問がしやすい」「レポートの内容に興味を持った人と話せることが出来て良かった」等があった。

これらの視点から、学生の中には、今まで対話として「聞く」経験が少なかったように伺える。保育所保育指針では、くどいほど「一人一人」のフレーズが出てくる。インクルーシブ保育を行う中で、個を大切に、個の自信につながるような援助が求められている。しかし、学生の感想からの視点をみると、たかが「聞く」についてであるが、豊かに聞く経験がないことが伺える。

3-3-2. 話す

話すに分けた視点として「初めは自分の調べたことを話すことに緊張したが、楽しくなってきた」「リラックスして話すことが出来、気軽に自分の意見を述べる事が出来る」「しっかり目を見て聞いてくれると話しやすかった」「繰り返して何回も話す自分も他者も内容に変化がある」「自分の意見をはっきり伝える練習にもなった」「話すことでテーマや選んだ理由や思いを知ることが出来た」「グループの人数が少ないから深い内容を話せてよかった」「分かりやすく説明する必要」等があった。

これらの視点から、学生が人前で話すことに緊張していることが分かる。大勢の前ではより緊張は高まるが、4人程度の小グループであったので、最初は緊張するものの、段々慣れていくことが分かる。また、何回も自分の意見を話すことで、自分の問題意識が明確になっていく過程があることが伺えた。人数が少ないと問題を掘り下げて話すことにも繋がっていた。

しかし、人前で話すことに慣れていないせいか、学生の数人は授業を欠席した。ここもしっかりと押さえていくことが必要である。

3-3-3. まとめる

ワールドカフェ方式では、前のグループで出た意

見を「親」になった人が、新たなグループのメンバーに話すことが求められる。その過程があるので、自分達の話し合いだけでなく、前のグループで出た意見を聞くことが出来る。

その中で「まとめる」に分けた視点として、「グループを変えた時に前の人たちがどんなことを言っていたかを聞いたことで、たくさんの人の考えを聞いた」「全員の意見の把握は難しい」「親としてはすべての意見をまとめることが大変だった」「人に対しての説明のやり方、簡潔にまとめることの重要性を知った」「どのような話し合いをしたのかという理解」「話し合っただけの内容を前のグループと比較することが出来た」「みんなの考えや意見を知ることが出来、学びを深めることが出来た」「それぞれの班で話すことが違ったり意見も違ったりする」「まとめた説明が分かりやすいと言われ嬉しかった」「違った意見を簡潔にまとめて説明する能力を身につけたい」「一人一人違う意見をまとめて次の全く違う意見をまとめて次のグループに伝えることが難しかった」等があった。

少人数なので、話の内容が深まっていくことは、「話す」からも分かったが、「まとめる」でも有効に働いていることが分かる。比較といった概念志向が働いている。しかし、そこで、親の負担が重くなる傾向がみられた。

3-3-4. 考える

考えるに分けた視点として、「同じ発表を聞いても、それに対する思いや感想は違って新しい発見があった」「話し合いをした中で価値観の違いに気が付いた」「自分が思っていないことを考えることが出来る話し合いで良い経験となった」「興味を持っていることが違うので、たくさん話を聞いていろんな考えを知った」「保育についてみんな違った視点から考えていた」「様々な話を聞くことが出来て良かった」「違ったテーマについて調べていることでより意見や考えが深まった」「自分一人では気づくことが出来なかった部分もあったので良い

経験になった」「話し合いの中で保育に必要な事、大切なことが分かった」「一人では考えられないような内容をみんなで協力して案を出し合う」が出ていた。また、「全体より時間的にも効率的にも良かった」「グループ全員が積極的に話し合いに参加しやすい」「他の人の意見も聞きやすいし自分の意見も言いやすい」ことが背景にあることでより考える視点が出来ていた。

3-3-5. 対話の重要性における考察

話し合いをすることを予告していた時点では、グループでの話し合いに抵抗を感じている学生もいた。事前に申し出た学生、当日欠席する学生もいた。実際にワールドカフェ方式の話し合いをする時点でも最初は緊張していることが伺えた。しかし4人を基調とした話し合いを始めることで、学生もリラックスをしていったことが分かった。また、固定した4人ではなくシャッフルすること、一人残った親が前のグループで出た内容を話すことで、実際には話していなくてもいろいろな意見が伝わっていた。

聞くことで、いろいろな意見を知り、話すことで自分の思考も固まっていく過程を経験していた。対話はAとBの意見があった時にどちらかに傾くのではなく、AとBの意見を尊重しながらCの意見に着地していくことが望ましい。学生はすぐに正解を求めがちで、失敗したくない気持ちが強い傾向がある。

いろいろな方と少人数で話す体験を多く持ち、一つの意見に流れるのではなく、「なぜ」の視点をもって考えながら自由に発言していく土壌をもっと作っていきたい。

3-4. コミュニケーションの構築

コミュニケーションの構築として、(1)ランダムな集まり、(2)相手尊重、の視点が多く出ていた。

3-4-1. ランダムな集まり

ワールドカフェ方式の話し合いを経験したことで「初めて行った」「最初は戸惑った」状況から、「楽しかった」という体験に変わっていった。そこ

の視点を見ると「あまり話したことの無い相手と会話することが出来た」「人と関わることは何より大切である」「普段しゃべったことがない人と保育に関する事を真面目に話している」「あまり話したことの無い人とも話し合えたので、その人柄も知ることが出来た」「普段話したことの無いことも話せた」等があり、普段話したことがないこと話せて楽しかった、といった感想が多く出ていた。

学生は、小さなコミュニティをすでに作っており、そこを大切にしていることが伝わってくる。冒険をして多くの人と繋がるのではなく、自分の居心地の良い場所・仲間と過ごすことを優先しているように感じていた。もっと広く考え方の交流が出来ると良いと思っていたので、このワールドカフェ方式の話し合いが、学生同士を繋ぐきっかけとなることを願って行った。今回、相手を知ることにおいてはその目的は達成されている。

3-4-2. 相手尊重

学生は、話し合いをする中で、「価値観を知ることが出来た」「相手の興味関心について知ることが出来た」「レポートを読むだけでは分からない相手の心情、表情が知れたので具体的に伝わった」「みんな自分の意見を持っている」等が出てきた。

「一人一人違って良い」とは思っている、人と違う行動、人と違う発言をすることで、相手からどう見られてしまうのか？と思うと怖くて、発言することもためられがちであった。今回、90分の授業の中で、いろいろな他者と話すことで、多様な考え方があることを認識していた。

3-4-3. コミュニケーション構築における考察

圧倒的に多かったものは、「普段話したことの無い人と話せて良かった」といった感想である。ワールドカフェ方式によるランダムなグループ作りは、他人の目を気にすることなく進められる方式である。次第に学生もリラックスしており、ワールドカフェ方式が学生同士を繋ぐことに役立っていたこ

とが伺えた。普段ならば、自分の思いなどは相手に伝えていない状況であるが、今回は、少人数であることが話しやすい利点となった。また、シャッフルをして多くの方と顔を合わせ、話しをする機会となったことで、より多くの方と話すことに抵抗がなくなっていた。今回ワールドカフェ方式の話し合いは、学生を繋ぐことに寄与していた。今後は、その後どのように話が出来た関係づくりが出来たかであるが、ここは今回不明である。

3-5. 学びへの気づき

学びの気づきとして、(1)今後の保育に対する姿勢について、(2)具体的な保育について、に分類できた。

3-5-1. 今後の保育に対する姿勢について

保育全体の事柄については、「自分の意見を持ち、周り話し合い、問題解決する力は、子ども達だけでなく、保育者にも必要」「社会問題になっていることを深く考えることが出来た」「社会のことをもっと知り、時代に合わせた保育が必要」「保育は型にはめるのではなく、人を育て、未来を創るものだ」「保育には正解がないので、たくさんの人の意見を聞き、自分なりに答えを見つけることが重要」「保育に関するいろいろな種類があって驚いた」「今まで見ていなかった方向から考えることが出来た」「視野を広げることが出来た」「解決策や改善策は自分が考えているよりたくさんあるのではないか」「課題にどう働いていくのが大切」「メリットとデメリットの混在」「学んできたことを振り返るきっかけ」「みんなが子どもの未来について考えていることを知った」「知らなかったのもっと調べたい」「保育は信頼や周りの協力が大切」「未来に不安があったが、色んな人と意見交換が出来。自分の考えも軽くなった」「ワールドカフェ方式の話し合いは今後の保育や教育で活用していくべき」

「ワールドカフェ方式は考え方の違いだったり調べている内容などを吸収できる良い場だった」「調べている内容もみんな違っていたため、学びも

多かった」「普段の些細な事も注意深く観察して考えることが大切」「幅広くいろいろなテーマに触れることが大切」等があげられる。

ワールドカフェ方式で話し合いをしたことで、内容も深まり、それぞれが、今後の自分の学びに対する気づきに繋がっていた。レポートを印刷して渡しただけでは、このような視点は出てこなかったことが伺える。

3-5-2. 具体的な保育について

実際の保育問題を話し合う中で、多様な視点が出てきている。「国の方針や法の整備をもっとしていないと少子化や保育士不足は解消されないと実感」「男性保育士の問題も考えていかないといけない」「保育士不足や虐待が気になった」「不足していた情報が多く保育を考える必要を実感」「地域との連携連携を濃密のとり」「保育士の給料、人柄が重要」「過去の保育から学ぶ必要」「保育は信頼や周りの協力が必要(市や県も)」「子どもとのコミュニケーションのあり方や保育の在り方」等があげられる。

特に男性保育士の問題では、いろいろなグループの議論が白熱していた。身近なところから考えることが学生にとっても自分事として考える基盤となる。身近なところから紐づけて討論していくことの必要性を改めて知ることが出来た。

3-5-3. 学びへの気づきにおける考察

学生のレポートの内容は多岐に渡っていた。レポートを読むだけでは得られなかった学びがワールドカフェ方式の話し合いからは生まれていた。対話の重要性、コミュニケーション構築があったからこそ出てきた視点である。学生は自分で調べたことを何回も伝えることにより、自分の中での考えがより鮮明になってきていることを実感している。リラックスできる雰囲気なので、質問もしやすく、課題がより明確になっていった。自分が思いもしない視点があった、との感想が多かったことから伺える。

4. 考察

今回1年生の前期の授業での振り返りとして、ワールドカフェ方式での話し合いを行った。まだ、保育について漠然としたイメージしかない段階であるが、話し合いを行ったことで、いろいろな視点が出てきている。数値に表すことはできないが、分析から、学生の保育に対する理解度は高まっていることが分かる。学生の視点でも「振り返りになった」とあった。

今回ワールドカフェでの話し合いの効果として、(1)リラックスした対話が可能、(2)学生同士を繋げることに寄与、(3)学生に学びの意識を定着させることに有効、と3点の効果が結果から導き出された。

この効果を上手く用いながら、授業に役立てていきたい。

6. 限界と課題

今回は最後の授業で、ワールドカフェ方式の話し合いを行った、1回であったが効果が大きいことが分かった。この話し合いを途中で入れてみることをしたら、更に効果が大きくなるのか、また、回数を重ねた場合どのような効果に繋がるかは今回の感想からは出てこなかった。今後検証していく必要がある。

また、今回学生を繋ぐことはできたが、その後さらに話せる関係性にするには何が必要かは、今回の内容からは出てこなかった。更に研鑽を深めていきたい。

引用文献

- 1) 音山若穂、等 (2012) 「保育者養成における実習指導への対話的アプローチの導入に関する基礎研究」群馬大学教育実践研究 第29号 p219-228
- 2) 利根川智子、等 (2017) 「対話的アプローチによる保育実習事後指導の実践」東北福祉大学研究紀要 第41号 p187-199
- 3) <http://www.spod.ehime-n.ac.jp>
- 4) パウロ・フレイエ (2011) 「被抑圧者の教育学」 亜紀書房 P131